

第89号

発行
平成30年8月

センターだより



所内スポーツ大会

目次

● 出会いの場 別府	1
● 第13回大分県障がい者スポーツ大会	2
● 第53回蛍の交歓会	3
● 第23回所内スポーツ大会	3
● 移乗介助動作体験を通して.....	4
● 車椅子収納装置（オートボックス）の紹介	5
● 大分県障がい者スポーツ交流大会	6
● 編集後記	6
● 終了者の状況、職員異動、利用者募集のご案内	裏表紙

指定障害者支援施設

国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局
別府重度障害者センター

出会いの場 別府

所長 三好 尉史

この秋、大分県内全域で第33回国民文化祭・おおいた2018と第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会が開催されます。伝統文化から近代アートまで様々な芸術文化に出会える県民総参加のお祭りとして、県内を5つのエリアに分け、各エリアの地域性を活かした多彩なイベントが計画されています。

そのメインイベント「障がい者アートの祭典・全国障がい者作品展」に、当センター利用者や地域で創作活動が続けている訓練終了者が絵画や手織り等の作品を応募し展示されることになっています。是非、大分県立美術館へ足を運んでいただき、力作揃いの作品を鑑賞していただきたいと思っています。

その他、「ときめき作品展」(大分市)や「アール・ブリュットの芽ばえ展」(別府市)でも利用者等の作品を展示予定です。

ところで、本大会で別府は「出会いの場」エリアになっていますが、確かに多くの方が集う出会いの場なのかもしれません。

ご承知のとおり、別府は温泉が有名で源泉数、温泉総湧出量が全国1位です。この豊かな自然の恵みや温泉街の風情、美味しい食べ物との出会いを求め、年間約800万人の観光客が訪れていると言われています。特に近年は外国の方が多く、様々な言語で用意された観光マップ片手に歩く外国の方と街中で出会うことも珍しくありません。

また、別府は多くの留学生が生活し学んでいることで知られていますが、その中心が市内にある立命館アジア太平洋大学(通称APU)です。平成30年5月時点で88の国、約3000人の留学生が、この地で出会い、民族や文化、宗教等の違いを超えて共に学んでいます。

少々、前置きが長くなりましたが、当センターも「出会いの場」です。利用者の方の年齢はおおよそ18歳から70歳ぐらいまで、出身地も西日本各地におよび、これまでたどってきた道のりも違います。そうした利用者の方たちが当センターで出会い、支え合ったり、時には刺激しあいながら、それぞれの目標や思いが叶うよう、日々訓練に取り組んでいます。しかし、訓練効果は見えにくいうえに、褥瘡や痛み・痺れ等に悩まされることもあります。訓練で将来への不安が全て解消されるわけでもありません。そんな時に当センターで出会った仲間が存在がとても大きいのです。

ですから、これからも質の高い専門的なサービスを提供しつつ、当センターを利用される方にとって、安心・満足の出会いの場となるよう努めていきたいと考えています。

最後になりますが、平成30年7月豪雨による災害では多くの方が犠牲になり、甚大な被害をもたらしました。被災された皆様にお見舞い申し上げるとともに、被災地域の1日も早い復興を心から願っています。

当センターとしても利用者や職員の生命や安全を守るとともに、地域の要支援者を受け入れる福祉避難所としての役割を十分発揮できるよう対策を充実させていきます。

第13回 大分県障がい者スポーツ大会



寒かった今年の冬が思い出せないくらいの初夏を思わせる5月の陽気の中、第13回大分県障がい者スポーツ大会が、県内各地で開催されました。当センターからは、アーチェリー競技、陸上競技に参加しました。

アーチェリー競技は5月19日（土）、別府市実相寺アーチェリー場にて行われました。頸髄損傷のクラスに新上さやかさんが出場しました。1年前から練習を開始し、長い基礎練習の後、今年に入ってから

矢を放つことができるようになり、その後短期間で30mの距離を打つことができました。苦手とする「緊張」「疲労」に自らしっかりと向き合うこともでき、72本の矢をしっかりと打ち切ることができました。

翌週5月27日（日）には大分市の大分銀行ドームにて陸上競技が開催され、当センターからは9名の利用者が参加しました。大会前は、セレクトティブワークの時間を使って練習に取り組み、準備をしてきました。50m走、100m走、ビーンバック投げ、スラローム等の競技があり、希望に応じてひとり2種目まで参加ができます。今年の参加者は、比較的機能レベルの近い方が多く、種目によっては、激しい争いが見られました。50m走では、当センター利用者3名がゴールまで抜きつ抜かれつの熱戦を繰り広げ、0.2～0.3秒差で勝負が決まるなど、応援する側も手に汗握る展開となりました。さらに、女子100m（中川みかさん）と女子スラローム（新上さやかさん）では、大分県新記録を樹立したことも報告しておきます。

各種目においてクラス別・性別・年齢別で表彰があることから、参加する利用者もメダルを獲得できる可能性は高いのですが、クラスによっては参加人数の多い激戦区もありメダルを手にする事ができない利用者も例年いらっしゃいます。今年は見事全員メダルを獲得することができ、支援者としては一安心でした。

近年は、会場で県内のOBやOGの方もちらほら見かけるようになりました。継続的に参加されている方もいらっしゃるようです。元気に競技に参加している様子を目にすることができ、また来年もお会いできればと思っています。

来年も多くの利用者の方が参加できるよう、スポーツに積極的に取り組めるような環境づくりをセンターとして心がけて行きたいと思います。



第53回 蛍の交歓会



6月7日(木)に竹田市立南部小学校の皆さんが、「友情の蛍」とともに来所されました。

贈呈式では、6年生26名から、約300匹の蛍の他、各学年の児童作品やお花が利用者に手渡され、合唱やリコーダー演奏を披露していただきました。

児童会長から「ホタルの光で少しでも心が和んでくれたらうれしいです。」と挨拶があり、利用者代表からは「この交流会をととても楽しみにしていました。障害のある人たちのことを知ってもらえたらと思います。」と歓迎の言葉を述べました。

贈呈式の後には、昼食会や、体験学習(車いす操作とゲーム、トールペイント、手織り、レザークラフト等)を通じて児童と利用者の皆さんとの交流を深めました。

夜には、当センター内の一室に蚊帳を張って蛍を放し、観賞会を行いました。

きれいにまたたくホタルの光に多くの利用者が感動し、初夏のひとときを楽しむことができました。

秋には「答礼」のため利用者代表数名と南部小学校を訪問する予定です。

第23回 所内スポーツ大会



7月5日(木)に第23回所内スポーツ大会が開催されました。利用者と職員が紅白に分かれて5種目(パン食い競争、ゴロサッカー、じゃんけんサッカー、ボッチャ、対抗リレー)を競い合いました。今年は例年より短い午後からの開催です。

開会式の選手宣誓では、赤組キャプテン桑田さんと白組キャプテン渡部さんが怪我なくスポーツを楽しむことを宣言し、スポーツ大会の幕が開きました。

競技は青山保育所の園児のパン食い競争から始まり、体育館は和やかな雰囲気に包まれました。その後、どの競技も白熱した戦いが繰り広げられ、最終競技の対抗リレーでは白組が大差を付けて勝利。優勝は白組かと思いきや、他の競技で点差を広げていた赤組が総合得点で優勝を果たしました。赤組は3年連続の優勝です。

この度のスポーツ大会開催においては、関係機関のご協力あって開催できたことを、この場をかりて御礼申し上げます。また、青山保育所の園児の皆様においては、競技への参加と可愛い応援をありがとうございました。

移乗介助動作体験を通して……

介護部門

6月5日(火) 16:00よりモデルルームにて庶務課・支援課の職員対象に夜間の避難を想定した移乗介助動作の体験を行いました。近年、日本中で大規模な自然災害が発生しています。今回の体験では、普段利用者に直接携わる機会の少ない職員に対し、有事の際にも落ち着いて利用者の避難・誘導が出来るよう講習を行いました。普段、介護スタッフは電動リフター等を使用していますが、今回は災害発生時に停電した場合を想定し、介助者が2名、若しくは1名でも移乗介助が出来る方法を実施しました。

介護福祉士が講師を務め、【ベッドから車いすへの移乗介助】を行いました。安全且つ迅速に移乗介助を行い、避難誘導出来なければ意味がありません。しかし、ただ力任せに行うだけでは、いくら緊急時といえども介助する側・受ける側ともに負担となり、身体を痛めたり、怪我をしたり、転倒してしまうというリスクが起こります。そうならないためのポイントを押さえ、説明・実演を行いました。

当日は所長を含め10名の職員が参加しました。体験した職員からは「普段、見よう見まねで行っていた移乗介助ですが、教えていただき体験する事で自信が持てました。」「またこういった機会があればぜひ参加したいです。」「利用者が安全に移乗する為に方法を学ぶ事は大切だと感じました。」「今回の講習を活かし、緊急時には安全且つ迅速に支援が出来るようにしたいと思います。」との意見が出ました。

緊急時の対応方法を知っているのと知らないのとでは、有事の際でも心構えや心の余裕に違いが出ると思います。今回のことを通し、定期的にこのような講習を継続していく事で、普段身体介護に携わらない職員の見識が広がり、また講習を行う側の介護福祉士にとっても日頃の自分自身を振り返り再確認する事ができ、全体としてのスキルアップに繋がるのではないかと感じました。



介護福祉士による実演後、庶務課・支援課の職員に介助者役と利用者役に分かれて車いす移乗介助を体験して貰いました。参加した職員は、戸惑いながらも、真剣に移乗介助に取り組んでいました。

車椅子収納装置（オートボックス）の紹介

頸髄損傷の方にとって自身で自動車に乗って外出するということは、活動範囲の拡大・社会活動への参加・生活の質の向上などを図る上でとても有意義なことです。車椅子ユーザーである頸髄損傷の方が他者の介助無く自動車の運転をするには、①車椅子と運転席間の移乗動作の獲得②車椅子の積み降ろし動作の獲得③運転技能の習得が必要です。この中で、車椅子を車に積み降ろす動作は、力が弱く体幹のバランスも不安定な頸髄損傷の方にとって非常に大変な動作であり獲得が困難であり、獲得できても動作にかなりの時間や労力を要してしまうなど自動車関連動作獲得の大きな壁となっています。

今回紹介する車椅子収納装置（オートボックス）は、運転席に座ったまま、屋根上のボックスへ車椅子を電動収納する装置で、車椅子を持ち上げる必要が無く、フックを引っ掛けて電動で収納できるため、筋力が弱く自力で車椅子を車に積み降ろすことが困難な方にとってとても有用な装置となっています。

オートボックス

◎スライド式カーゴにより、

車椅子をスムーズに吊り上げ収納

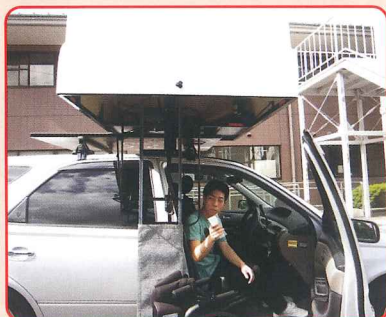
◎水平に展開するため、車高の変化を気にする必要なし

◎展開すると雨よけ（傘の代わり）になる

◎オプションで車のボディ色に合わせた塗装可能



《オートボックス操作手順》



①車に乗り込み、車椅子を折りたたみます。

②ボックスを展開して、スライド式カーゴを一番下まで降ろします。



③車椅子の座面部ベルトに吊り上げフックを掛けます。

④電動で車椅子を吊り上げていきます。



⑤車椅子が収納された後、ボックスを格納します。

当センターの移乗訓練用自動車にも、オートボックスが搭載されています。ご興味がある方は、センター理学療法士までご相談ください。

大分県障がい者スポーツ交流大会

5月13日(日)、植田公民館において大分県障がい者スポーツ交流大会が開催され、当センターのボッチャクラブから7名の利用者が、2チームに分かれて参加しました。当日は、雨の降りそうな曇り空。しかし、ゲームは体育館で行うので問題はありません。車2台に分乗し、意気揚々と会場へ向かいました。



午前中の予選は12のチームが2つのリーグに分かれて行われました。センターAチームとBチームはそれぞれのリーグで熱い戦いを繰り広げ、決勝に進出。ここまでは予定通りです。午後の決勝トーナメントでは、いきなりセンターAチーム対Bチームというお互いに手の内を知る者同士の戦いとなりました。しかし、優勝を目指す両者にとって避けては通れない一戦です。技術のみならず、心理的な駆け引きで相手に揺さぶりをかけつつ展開されたこの試合は、Aチームの勝利となりました。勢いに乗るAチームが進んだ決勝戦では両チームの実力が拮抗、同点でラウンドが終わり、最後は両チームの選手全員が一球ずつ投球して勝敗を決めるという手に汗握る展開となり、フロアを興奮の渦に巻き込んだ非常に見ごたえのある好ゲームとなりました。結果、Aチームは優勝を飾り、Bチームも4位と健闘しました。

この大会では名ショットが連発され、フロアをうならせ、観客を沸かせる場面が何度もありました。大会に参加することで、普段とは違った気持ちでプレイすることが出来たのではないのでしょうか。それぞれに日頃の練習の成果を発揮して、手ごたえを感じた一日だったように思います。

編集後記

今年の夏の前半は非常に暑かったですね。猛暑のため当センターでは毎年恒例の納涼盆踊り大会を利用者・町内参加者の健康面に配慮し中止しました。7月23日には埼玉県の熊谷市で41.1度を記録し、5年ぶりに国内最高記録を更新したそうです。気象庁が異例の記者会見を開き、「命に危険を及ぼすレベルで災害と認識している。」といった表現で暑さへの注意を呼びかけていましたが、まさにそのような感覚を覚えました。2020年の夏には東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されますが、日本の知恵や技術を結集し暑さ対策に万全を期してほしいと思います。

さて、センターだより次号は1月に発行予定です。今年後半のセンター行事等の様子をお伝えしますので、またお読みいただけたら幸いです。

終了者の状況

(平成30年1月1日～平成30年6月30日)

復帰形態	家庭復帰	就職	自営・内職	現職復帰	就労支援施設・能開校	他施設	病院	進学	その他	計
人数	7	2	0	0	1	3	0	0	0	13
比率(%)	53.8	15.4	0	0	7.7	23.1	0	0	0	100.0

職員異動

平成30年4月1日付

- 採用 医務課介護福祉士
- 転入 支援課長
支援課主任生活支援専門職
- 転出 支援課長
支援課主任生活支援専門職
医務課主任介護福祉士
支援課生活支援専門職
- 内部異動 庶務課長補佐
医務課主任介護福祉士
〃
〃
〃
支援課生活訓練専門職
(併) 機能訓練専門職

- 安東 朋子
- 有馬 昭郎 (神戸視力障害センターより)
- 中山 修司 (函館視力障害センターより)
- 藤田 ゆかり (国立障害者リハビリテーションセンターへ)
- 成戸 宏幸 (神戸視力障害センターへ)
- 利光 香奈子 (国立障害者リハビリテーションセンターへ)
- 周藤 方史 (国立障害者リハビリテーションセンターへ)
- 仁木 登志博
- 東 豊能
- 峯野 雄一郎
- 河原畑 由佳
- 曾川 史恵
- 水谷 彰

平成30年5月1日付

- 採用 支援課生活支援員

齊藤 ひかり

平成30年6月19日付

- 採用 医務課理学療法士(任期付)

森田 有紀

利用者募集のご案内

当センターは、厚生労働省が設置・運営する指定障害者支援施設です。主に頸髄損傷等による重度の肢体不自由の方で、市区町村から「障害福祉サービス受給者証」の交付を受けた方を対象に、社会復帰に向けた支援を行っています。

ご利用できるサービスは以下の通りです。

○自立訓練(機能訓練)

理学療法、作業療法、スポーツ訓練、職能訓練です。

利用期間については、利用開始後の評価に基づき作成した個別支援計画書に定めた期間となります。障害者総合支援法上の標準利用期間は1年6か月間です。(頸髄損傷による四肢の麻痺その他これに類する状態にある方は最大3年間です。)

○施設入所支援

自立訓練(機能訓練)を利用される方で、自宅から通所が困難な方のために、看護・介護等の支援を受けながら宿舎の利用が可能です。

詳細は、次のURLから当センターのホームページをご参照ください。

<http://www.rehab.go.jp/beppu/>

なお、当センターの概要や利用申込み手続き、見学などのお問い合わせについては、下記までご相談ください。

お問い合わせ先

国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局

別府重度障害者センター 支援課

住所 〒874-0904 大分県別府市南荘園町2組

電話 0977-21-0182(利用相談) FAX 0977-21-2794

E-mail soudan-beppu@mhlw.go.jp

頸髄損傷者の自立訓練(機能訓練)については下記の国立障害者リハビリテーションセンターの利用も可能です。

国立障害者リハビリテーションセンター

所在地 〒359-8555 埼玉県所沢市並木4丁目1番地

電話 04-2995-3100(代) FAX 04-2992-4525(直通)